

2019年11月13日
日本貨物鉄道株式会社
日本通運株式会社
京都鉄道博物館

EF200形式直流電気機関車及びシキ800形式貨車のお別れセレモニー 最後の出線シーンを特別公開します

日本貨物鉄道株式会社（以下、JR貨物）と日本通運株式会社（以下、日本通運）及び京都鉄道博物館は、EF200形式直流電気機関車及びシキ800形式貨車を京都鉄道博物館内で特別展示します。

このたび、展示最終日に京都鉄道博物館からの出線シーンをお別れセレモニーとして公開することが決定しましたのでお知らせいたします。EF200形式直流電気機関車、シキ800形式貨車とも間近で見ることが出来る最後のチャンスとなります。また、展示期間中のイベントについても併せてお知らせします。



出線シーン（イメージ）



本館1階「車両のしくみ／車両工場」エリア
（車両は過去展示のもの）

1. お別れセレモニー

- (1) 日 時 2019年11月24日（日）15:00～
・展示期間は2019年11月16日（土）～11月24日（日）
・11月20日（水）は休館日
- (2) 場 所 京都鉄道博物館 本館1階「車両のしくみ／車両工場」エリア
- (3) 展示車両 EF200形式直流電気機関車 1両（JR貨物）
シキ800形式貨車 1両（日本通運）
- (4) 内 容 ①出席者代表挨拶
②お別れメッセージのご紹介
③出線シーン公開

2. イベントの開催

- (1) 期 間 2019年11月16日（土）、17日（日）、23日（土）、24日（日）の4日間
- (2) 内 容 ①JR貨物子ども制服での記念撮影
②EF200形式直流電気機関車の運転台公開
③EF200形式直流電気機関車&シキ800形式貨車の解説ツアー
・イベント内容の詳細については、京都鉄道博物館ホームページに掲載します。
・JR貨物オリジナルグッズの販売は行いません。
・都合により、車両展示期間並びにイベント内容の変更または中止となる場合もございます。予めご了承ください。

※参考...特別展示車両の紹介

(1)EF200 形式直流電気機関車

EF200 形式直流電気機関車は JR 貨物発足後の 1990 年（平成 2 年）から 1993 年（平成 5 年）にかけて製造され、2019 年（平成 31 年）3 月まで、当社の大動脈である東海道・山陽線でのコンテナ貨物列車けん引に活躍した機関車です。当時、機関車としては初めて VVVF インバータ制御と三相かご形誘導電動機を搭載、出力も従来の EF64 形式や EF65 形式といった直流電気機関車の出力に比べて約 1.5 倍～2.4 倍となる 6000kW を発揮し、最高運転速度 120km/h で 1600t をけん引する性能を有していました。ユニットブレーキおよび電気ブレーキ併用の電気指令式空気ブレーキシステムを採用する等、その後の新形式機関車に応用される技術を多数蓄積した機関車でしたが、2019 年 3 月 28 日をもって運用を終了しました。



(2)シキ 800 形式貨車

シキ 800 形式貨車は、1973 年（昭和 48 年）に日本通運の私有貨車として製造され、主に大型変圧器の輸送を担ってきました。各重電メーカーによって異なる荷受ヒンジの構造に対して、荷受梁に工夫を施して各メーカーの方式に対応可能な汎用車として開発されました。荷受梁はガーダー（橋桁）構造で、側面幅は変圧器の幅にあわせて伸縮可能です。荷受ヒンジは梁から突き出る「雄型」の B2 梁（製造当初は梁にはめこむ「雌型」の B1 梁も用意）で、アタッチメントと組み合わせることで、どのメーカーの製品にも対応可能でした。積載時には 45km/h で運用し、空車時は 75km/h で回送が可能です。製造から 46 年間大型貨物の輸送に携わってきましたが、今月上旬に行われた輸送を最後に、運用を終了しました。

